

(1) 平成28年12月1日

東京医科歯科大学 献体の会会報

けんたい

第42号

発行／東京医科歯科大学 献体の会

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 03-5803-5147

国立大学法人 東京医科歯科大学医学部解剖学教室内



湯島を背にスカイツリーを望む「浅草遠近」

撮影 小山總三郎

目 次

ご挨拶

東京医科歯科大学歯学部長

森山 啓司 3

『特別講演』

「後世への最良の贈り物」

医師専門領域泌尿器科製薬医学

医学博士 永田 傳 4

東京医科歯科大学医学部卒業

4

『東京医科歯科大学関係行事』

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

7

挨拶 献体の会会长

7

感謝の言葉

7

納骨堂春季彼岸法要

7

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会

7

ならびに第四十一回東京医科歯科大学献体の会総会

7

平成二十八年度解剖体追悼式

7

学生代表 内田雄太郎 佐藤 達夫 8

8

学長 追悼の辞(代読)東京医科歯科大学理事 田上 順次 10

10

来賓 追悼の辞 献体の会会长 佐藤 達夫 9

9

納骨堂秋季彼岸法要

8

横井妙子さんを偲んで 2844 兵頭 作一 16

16

『篤志解剖全国連合会関係行事』

15

第40回篤志解剖全国連合会団体部会・大学部会合同研修会 17 16

15

第46回篤志解剖全国連合会総会 17 16

14

『会員寄稿』

13

【エッセイ】

12

古代戸籍 5184 長谷 久枝 18

11

健体を献体 3941 吉本 亮三

10

卒寿の彼 5281 奥田 啓一

9

母と姉と私の献体 5443 根本 節子

8

あわや！ 3820 前川 芳一 22 21 19 18

8

[短歌]

短歌(五首)

5443 根本 節子

[川柳]

4785 磯 秀夫

[俳句]

81 塩田美保子

[俳句]

2958 木村 武雄

[表紙の写真説明]

4667 石井 禮子

[会員のご家族へのお願い]

5443 根本 節子

[大学からのお知らせ]

4785 磯 秀夫

[東京医科歯科大学献体の会会則]

| | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ◆編集後記 | 28 | 28 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 24 | 24 | 24 | 23 | 23 |
| ◆連絡先 | 28 | 28 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 24 | 24 | 24 | 23 | 23 |



金子 重紀

『ご挨拶』



東京医科歯科大学

歯学部長 森山 啓司

東京医科歯科大学歯学部長の森山と申します。

献体の会の会員の皆様には、平素より歯学のみならず広く医療系の教育・研究に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

私は歯学部長に就任して三年目となります。解剖体追悼式やご遺骨返還式に毎年出席させていただきたびに、献体をされました方々の崇高なるご遺志、そしてご親族の皆様の深いご理解とご厚意に感銘を受け、深甚なる感謝の気持ちで満たされております。同時にこれは、良き医療人を育成することへの社会からの期待と責任を、改めて強く感じさせていただく機会にもなっています。

本学の学生が一年間の教養課程を修了し、専門課程に進学して最初に学ぶのが人体解剖学です。学問を成就する道程の半ばで、医療人としての人格形成においても途上にある学生たちが、解剖実習室に安置されているご遺体と向き合い、教育のために自らの身体を捧げるという献体者の方々の無言のメッセージを、学生たち一人ひとりが全身で受け止めることになります。そして、彼らは眞の意味で医学・歯学の道へ歩み出したことを実感し、生涯忘ることのない記憶として心に深く刻み込んでいきます。本実習を通じて彼らは、人体の構造や機能を学習するだけでなく、人間の尊厳や生命に対する畏敬の念を抱き、自然の偉大さに気付き、そして医療人として具備すべき謙虚さについても学んでいくのです。

かつて英國オックスフォード大学の生物学者リチャード・ドーキンス博士が、「利己的な遺伝子」という著書の中で、ミーム (meme) という概念を提唱しました。これは、人類の文化を進化させる上で、人から人へコピーされる遺伝子以外の情報を意味する言葉です。習慣、思想、文化、宗教、政治などにおいて、生物学的な遺伝様式を経ることなく、人から人、人から社会、社会から人へと時空を越えて複製、伝播され、遺伝子をも凌ぐ影響力を社会にもたらすと考えられています。近年、世界を恐怖に陥れているテロリズムは、さまざまなメディアを介して遠く離れた国の人々の心を揺さぶり、負の連鎖をさらに拡大させていますが、このような国際的な社会問題は、人の心が脆弱で、良い方向であれ悪い方向であれ可塑性を持つて容易に変化しうることを我々に知らしめています。一方、医療系大学の教育現場に身を置く者にとりましては、人類の健康・福祉の増進を通じて、平和な社会の実現に貢献しうる人材を養成することが最終目標となります。まさにその入り口に立つ学生たちに対してもいかなる教育を提供していくかが、我が国の未来に大きな影響を及ぼすと言つても過言ではありません。人生観、死生観というものは、国、民族、地域、また個人によりさまざまですが、生あるうちに自らの死を客観的に受け入れて、医学・歯学の教育のために自らの身体を捧げられた尊い献体者のお志は、間違いなく学生自身の心に一生宿り続けることでしょう。将来彼らが医療人となり、人々の健康や生命を守りぬくことの困難さに直面した際に、それを乗り越える勇気を与えてくれるのが、解剖実習を通じて献体者の方々から授かった心のバトンではないかと思います。

我々としましては、こうした尊いご遺志に対し心より敬意を表しつつ、医学・歯学のさらなる発展のためにこれまでにもまして精進を重ねていくことが、ご献体をいただいた方々とご親族の皆様のご厚意に報いることに通じると信じております。

最後になりましたが、献体の会の会員の皆様方には、本学の教育・研究に今までにも増して深いご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げますとともに、皆様方ますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

《特別講演》

「後世への最良の贈り物」



欧洲製薬企業連合会理事長・
塩野義製薬（株）チーフメディカルオフィサー
東京医科歯科大学医学部卒
医師専門領域泌尿器科製薬医学 医学博士 永田 哲

初めに

佐藤会長より、遺体不足の折に解剖実習を経験し、当時献体の会で会員との話し合いに参加し、外科系に進み局所解剖の重要性を認知しており、なおかつ父親の献体を成就したことより、講演を依頼したいとのご連絡を頂きました。小生は、一般外科、泌尿器科を経て、解剖学とはかなり距離のある製薬会社で新薬の開発の仕事をするようになり、現在は専門は製薬医学に携わっております。

学生時代の解剖実習のこと

小生は昭和五十三年卒業ですが、当時は四名でご遺体一体と、遺体不足の時代でした。献体提供の篤志家が増加し、現在、献体の会登録者総数五六七五名、生存会員数は約二、五〇〇名、平均年齢約八十歳、年間受け入れ遺体数は七十一一〇〇体だそうです。

解剖実習はなぜ必要か？

体の中の構造は、開けてみないとわからず、昔から、解剖学者は苦労してきました。墓あらしをしたり、刑死者の解剖体を探してまで体の構造を研究してきました。一八九五年にレントゲン線により透視ができるようになって、体を切り開かなくても人体構造がわかるようになつたと言えます。

紀元前三〇〇年（一二三〇〇年前）ころ、トルコ共和国のカルケドン出身のヘロフィロスという学者は囚人を六〇〇人生きたまま解剖したと言われています。五〇〇年ほど前の十六世紀のヨーロッパの解剖学者Vesaliusは現代人体解剖学の創始者と言われていますが、その著書のFabrica（人体の構造）という著書は東京医科歯科大学にも佐藤会長が入手されたと伺っています。日本においても山脇東洋が十八世紀中頃に死刑囚の解剖を行つて解剖図を刊行しています。

このように、肉眼解剖学の歴史は古く、今更、付け加えることはあるのでしょうか？ 光学顕微鏡や電子顕微鏡が発明され、分子生物学や遺伝学などが発展し、生命体の作成などもできるかもしれないと言われるほど科学は進歩してきています。コンピュータの技術が発展して、文字情報以外に映像情報の入手も簡単になり、自前のコンピュータでかなりの情報が入手可能です。また、ヒトの体を用いなくとも動物の解剖を行えば十分だという考え方もあるかもしれません。精巧な人体模型も使用可能で、3Dプリンターで自分で作成もできるかもしれません。三次元CT/MRIでは体の内部の様子がかなりわかるようになっています（もつとも、神経やリンパ管の詳細な走行まではまだわからないようですが）。

「死」ということ

以上のような状況になつてているのに、どうして解剖実習が必要なのでしょうか？ 解剖実習でご遺体にお会いする時にまず学生が感じること、また学ばなければならないことは「死」という現実だと思います。近年は身近に肉親の死を経験せずに大学入学に至る学生も少なくないと思います。現代は、医療関係者以外の方が、死を身近に経験されることが少ない時代になつていると思います。医療者は「死」を知つていなければならぬと思います。解剖実習はまず死との対面から始

まります。「死」については、心理学、カウンセリングにより啓蒙する教育方法もあり、それらはそれとして意義がありますが、解剖実習で五感を使って経験する「死」の現実体験なしではその意義は十分にならないと思います。

小生が解剖実習でご遺体に接して覚えているのは、恐ろしいとか、氣味が悪いという気持ちではなく、莊厳な、神秘的な、身を正さなければいけないというような緊張感だったと思います。解剖の機会を与えて下さるべくご遺体の提供を決断された方が目の前におられるといふことに感動し、感謝する反応だったのかもしれません。更に、小生が原始的な感覚として覚えているのは、ご遺体はまず、冷たい、固い、黄色、あるいは色がないなという感じでした。当時は多分手袋をしていなかつたと思いますが、裸のご遺体を手で触らせて頂いて冷たい、固いと感じました。手が冷たくても心が温かいとも言われることがあります、生前とは異なり低くなつたご遺体の体温を感じながらメス、ハサミ、ピンセットを入れさせて頂いて、「死」を初めて肌で体感することになるわけです。また、そのような機会を与えて下さるべくご遺体の提供を決断された方が目の前におられるといふことに感動し、感謝する貴重な経験の場でもあります。これから自分は人体を扱う職業を目指すのであるという覚悟と、献体という奉仕の精神を教えて頂いたと思います。医師の職業は奉仕する職業であり、その精神を学ぶ第一歩になつたのだと思います。模型やバーチャルリアリティーからはこのようないい気持ちは得られないと思います。

解剖実習で何がわかるか?

当然ですが、解剖実習では出血することはありません。実際の手術の時は、出血をできるだけ避けるように進めることができ肝要で、無血管領域・無血管層はどこかを予め知つておくことが安全な手術の基本です。矛盾して聞こえるかもしませんが、出血の心配がない解剖実習

において、遺体の諸構造（骨、筋、内臓、血管、神経、リンパ系など）を充分理解してこそ、無血管領域・無血管層が理解できるようになります。無血管領域は疎性結合組織の層です。筋肉と皮膚の間、筋肉と筋肉の間、筋肉と骨の間の膜の他、骨膜、腹膜、胸膜、心膜などからだの臓器は膜におおわれており、それを剥いていく作業が手術では必要になります。膜という概念が体の構造を理解するうえで重要ですが、解剖実習ではそれらの膜をはがす時のいわく言い難い独特の触覚・感覚が学べたと思います。

手術では、解剖実習時とは異なり、ある特定の場所に到達する道筋（アプローチ）が制限されています。それは、損傷を最小限にして医療目的を達成することが患者さんにとって重要だからです。また、傷の修復や失われる機能を最大限補うことが必要ですが、解剖実習ではそのような配慮は不要です。こういった制限下で手術を行うときは、おのずから、見える範囲が限られています。最近では直接目で見ないで、小さい穴から内視鏡を入れて、得られた画像をテレビスクリーンに映して行う手術が多くなつてきています。また、内視鏡のほかに手術器具を別の小さい穴から入れて手術をするロボット支援手術ということも行われるようになっています。手術時の視野は狭いことが多いですが、解剖実習ではそのような制限がないので全体像がつかめるようになるわけです。

父の献体のこと

九十七歳になつた二〇一二年の亡くなる半年前くらいのこと時です。友人からはがきで献体された奥様の遺骨が返還されたことを知り、自分の配偶者が医師であったこと、息子も医学部卒業で、医学には世話になつてきたので、是非東京医科歯科大学に献体したいので手続きを取つて欲しいとのことでした。献体登録書が届き、約半年後に亡くなつて、大学に連れて行つて頂いてお世話をになりました。一年三

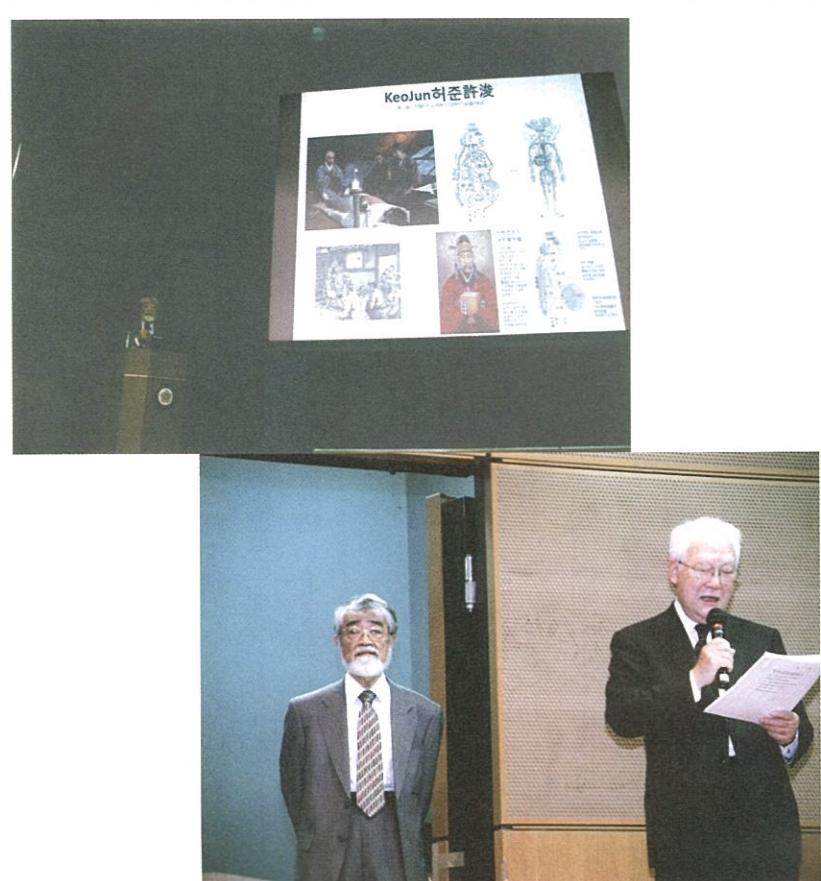
か月後に遺骨が返還されるまでの間、家族の間では、お父さんはボランティア活動を続いているのだと言つていました。返還式には小生と弟で出席させて頂きました。

からだを捧げるために

献体と、臓器移植に関しては日本では別々の法律により取り扱われています。アメリカの法律では、Anatomical Gift Actと言われています。「からだの贈与法」です。「からだの贈与とは移植、治療、研究または教育を目的として、からだ全体またはその一部を寄贈することと定義する。提供者の死後有効となる」とされており、日本に比べて包括的な法律になっています。日本の法律に基づく献体にしろアメリカ流の Anatomical Gift にしろ、寄贈するご本人の意思が基本です。死体の解剖についての本人と遺族の承諾について法律的な変遷がありました。従来、遺族の承諾が必須だったことに比して、最近は献体者の意思を更に重要視するようになってきていることが条文を比べると判明します。

後世への最良の贈り物とは？

講演のタイトルは、高校時代に読んだという内村鑑三の一八九五年（明治二十七年）の「後世への最大遺物」という講演からヒントを得ました。献体にしろ Anatomical Gift にしろ、後世へのよい贈り物だと思ったからです。この本の「遺物」は英語の memento、記念品、形見という意味です。ここから、講演のタイトルを「後世への最良の贈り物」としました。内村鑑三は、小生の留学したアーモスト大学の大先輩です。



特別講演 永田 傳先生を紹介する佐藤達夫献体の会会長

て覚えられるべきものはなにもなくとも、アノ人はこの世の中に活きているあいだは真面目なる生涯を送った人であるといわれるだけのことを後世の人々に残すことがあります。」と結んでいます。講演はなかなかの熱弁で、一〇〇年経つてもその熱意が伝わってくる文章ですが、内村はからだを後世に残すことまでは考えなかつたかもしません。小生は、献体の決意をなされた会員の皆様は、後世へ最良の贈り物をお考えになつたと思っております。しかしながら、最近の献体の会の状況を考えると、贈り物をすぐに配達する必要はないと思ひます。どうぞ、お元気で長生きをし、ゆつくりと大学に来て下さるようお願い申し上げます。

《東京医科歯科大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

平成二十八年一月十九日（火）午後二時より、第三十二回東京医科歯科大学解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式が東京医科歯科大学M&Dタワー2Fの大講堂に於いて、しめやかに執り行なわれました。

大学からは、理事、医学部長、歯学部長、解剖学分野教授、准教授、献体の会会長及び役員、医学部医学科二年生、歯学部歯学科二年生が出席し、会場内には約四〇〇名の方々が参加し、解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式が執り行われました。

開会の辞に続き、参加者全員により、一〇四柱の御靈に黙祷を捧げました。



ご遺骨の返還

続いて学長挨拶ですが、吉澤靖之学長は海外に出張のため、田上順次理事が学長挨拶を代読されました。

学長挨拶では、今日の医学・歯学の進歩は目覚しく、様々な領域で新しい医療技術が開発され、人々の健康と社会の福祉に大きく寄与してまいりました。しかし一方では生命そのものに携わる医療人には今まで以上に社会的責任や倫理観が問われております。

医学生・歯学生が専門課程に進み、ヒトのからだに直接接する最初の経験が、人体解剖学実習であります。ご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を学びつつ、生命の神秘、尊厳に触れることになります。まず学生は戸惑い、畏れ

を感じることになりますが、やがて奇跡とも思えるその精緻な人体の構造を知るにつ

れ、これまで経験したこともない生命に畏敬の念を抱くことになります。同時に、献体という行為が如何に崇高なものであるかを、心から感謝しつつ医療人としての感性を研ぎ澄まします。



文部科学大臣感謝状贈呈式

医学の進歩とともに医の倫理・生命倫理が強く呼ばれておりますが、解剖学実習に献じられたご遺体は無言のうちに「医の倫理とは何たるか」を学生に語りかけて下さいます。と挨拶されました。続いて御遺骨の返還が行われ、祭壇より手渡されたご遺骨が、解剖学教授、准教授、学生によりご遺族一人一人に返還されました。

次いで、学生代表、医学部医学科二学年内田雄太郎さんの感謝の言葉がありました。

続いて、佐藤達夫献体の会会長の挨拶がありました。

次いで、文部科学大臣感謝状贈呈式が行われ、田上順次理事から六十柱のご遺族の方々に一人一人に丁寧に感謝状が手渡されました。

続いて解剖学教室を代表して柴田俊一教授からご遺族の方々に挨拶があり、ご遺骨返還式及び感謝状贈呈式は滞りなく終了しました。



参加者全員による黙祷

御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

挨拶



東京医科歯科大学献体の会

会長 佐藤 達夫

ご遺族の皆様、本日はお忙しいところ、また寒さ厳しき中をご足労いただきましてまことにありがとうございます。ご献体くださいました方々のご遺骨が、最愛のご遺族の皆様のもとに無事ご返還されました。我々も少し安心いたしているところであります。ご遺骨をお返しするまでにかなり長い時間がかかることが献体の特徴の一つであることはご承知とは存じますが、なにかと落ち着かない不安な日々をお過ごしであったかと推察申し上げます。

さて献体の意義につきましては学長の挨拶、またご献体に長期間寄り添つて実習に励んだ学生の御礼の言葉で十分に言い尽くされておりますので、私のつたない言葉を付け加えることは遠慮いたしたいと存じます。私は、献体の会を代表して皆様にご挨拶申し上げておりますが、一三年前までは、長らく本学の解剖学教室の末席をけがしておりましたので、献体の登録者であると同時に、学生とともに献体から学ばせて頂いていた者でもあります。そのような経験を踏まえてお話をさせていただくことをお許しいただきたいと存じます。

私が本学で解剖学実習をはじめて担当したのが四一年前の昭和四九年ですが、その年の受け入れ遺体数はわずかに一〇数体、献体登録員も二〇〇人以下に過ぎず、実習に大変難儀し、献体のPRに奔走し

た毎日がありました。そのような時に、考え方は大きく二つに分かれます。一つは、献体の意義を説き続け、また少ない遺体から十二分に学べるように実習教育法の改善に努力して時節の到来を待つことあります。献体運動の先輩たちの努力、そして本日、皆様のもとにお帰りになつた献体者の方々のご理解とご協力により、献体の法律、献体者への文部大臣感謝状贈呈が具体化するなど、献体思想は我が國の土壤に十分に根づいたとみることが出来ます。

しかし今だからつぶやくことができますが、当時はもう一つのチヨイスも十分に有りうる雰囲気だつたのです。他の選択肢とは一体何でしょうか。それは信じられない話ですが、標本や模型の観察と見学で置き換えるという構想がありました。そうすればご遺体を集める苦労も解消するし、このゲノムの時代に今更ご遺体にメスを加えるのは時代錯誤も甚だしい。模型では不十分だというが、それなりの投資をすれば人体の複雑な構造も十分に理解可能な模型を開発できるはずだ、要は費用の問題だというのであります。

事実、本学出身の先輩で北米で長く教鞭をとつておられたH先生から伺った話でありますが、カナダのある大学で、学生を、解剖学実習を行うグループと見学だけのグループとの二つに分け、学期末に解剖学の試験をしたところ両者の成績に差は認められなかつたというのであります。

技を伴う実物教育が絶対に必要だと感じていることです。

以前、ミ Yun ヘン大学解剖学の P 教授、この先生は副学長としてドイツ全体の大学教育改革に取り組み、一〇年ほど前には本学にも立ち寄られたことがあります。この先生に解剖学実習不要論をどう思うかと質問したことがあります。P 先生は即答されました。曰く「学生が解剖学実習を行う毎日は、彼らにとつて発見の連続である。実習を行わないことは、学生から発見する歓びを奪ってしまうことにほかならない」と。私はこれが一番大切なキーポイントだと思います。献体思想が普及することにより、医学生・歯学生は不自由なく実習を行うことが可能となり、人体について十分な知識と学識をつけることができるとき、さらに献体者から医の倫理も学びました。そして自分の五感を総動員した実習作業を通じて多くの発見をし、それらを材料として人体に対し、人間というものに対する考え方を深めることができるようにになったのです。

それもこれも本日ご遺骨をお返ししました献体なされた方々のご厚意によるものです。しかし、他のボランティアと異なり、献体は自分の力だけではできません。ご遺族の協力があつてはじめて大学への献体というご本人の希望がかなえられるのです。本日お越しのご遺族の皆様に心から御礼申し上げます。さらに長期間にわたる実習を通じて小さな発見を積み重ね絶えず成長を続けてきた学生の皆さん、指導に当たられた解剖学教室の教職員の方々、そして、このような厳粛なご遺骨返還式を挙行していただきました学長はじめ東京医科歯科大学の皆様に深甚なる敬意を捧げます。

感謝の言葉



東京医科歯科大学 学生代表

医学部医学科第二学年 内田 雄太郎

本日、ご遺骨返還式にあたり、ご献体くださいました故人の皆様ならびにご遺族の皆様に東京医科歯科大学の学生を代表いたしまして感謝の言葉を申し上げます。

私たちは東京医科歯科大学に入学して二年目になりますが、本格的に医学について学ぶのは本年度からでした。教養科目が中心であった一年目に於いては、医学を学ぶことに対する期待と好奇心や自分の医師としての将来像への漠然とした不安の入り混じる複雑な感情を誰しもが少なからず抱いていました。

そのような中で二年生に進級していくよいよ医学の勉強が始まりました。からだのかたちができていく過程をひとつづきの流れとして意識しながら理解すべき発生学と人体解剖学。一つ一つの構造を、顕微鏡を使つて細かく観察し、その役割と神秘を学ぶ組織学。どのように神経伝導路が走行しているのか、三次元的なイメージを構築することが要求される神経解剖学。これらの科目の難解さに圧倒されながらも、理解しなくては医師になる資格がない、いわば登竜門として苦心して学んできました。

解剖学実習はそんな悪戦苦闘している時期に始まりました。最初の解剖学実習でご遺体と対面した時の感情はなんとも言えぬものがありました。今省みるとその感情は、自分が教科書や図表、講義資料を通して描いていた想像とは全く違う現実を突きつけられたことに対する衝撃、そして献体なさった方々に対して勉強不足によつて礼を失することは断じてするまいという決意などの入り乱れたものであつたよう

に思います。なんとかこの実習を有意義なものにすべく、責任感にかられながらも必死に勉強しつつ実習を一つ一つ丁寧にやっていくことを心がけて参りました。

はるか四〇〇年前、科学者ガリレオ・ガリレイは次のようなことばを残しました。あらゆる真実は一度発見されれば理解するのは容易だ。肝心なのは真実を発見することだ、と。これは人体解剖学をはじめとした様々な解剖学の成立において当てはまるのではないかと思います。例えば臍臓は、今でこそその外形は当たり前のように医学生、医師をはじめ多くの人に認知され、世界的名著となっているグレイ解剖学にも綺麗な図が載っています。しかし正確な形態を把握するまでには、その臓器の特殊性と解剖技術の未熟さから多くの年月がかかって、ということはあまり知られていないのではないでしょうか。同様に、他にも数え切れないほど多くの構造が時間をかけることにより発見され、また現在も世界中で研究が進められています。私たちも実習や講義と並行してこういった器官の発見の歴史の一端を学び、確固たる学問が形成されていくことの難しさを感じます。

しかし、同時に、こうした医学の成立の背景には自分のからだをささげてくださった方々、そしてその御遺族の方々のご理解があるということを強く意識しますし、決して忘れてはいけません。医学の進歩に貢献したい、一人でも多くの人を救いたい、という献体なさつた方々の純粹で高貴な信念には尊敬と畏怖の念を抱かずにはいられません。その信念に少しでも応えるべく日々精進し医学の進歩に携わることが私たち医学生に与えられた使命であり、献体された方々の供養となると感じています。

最後になりましたが故人の皆様と故人の御意志に賛同下さいましたご遺族の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、故人の皆様のご冥福を中心よりお祈り申しあげ感謝の言葉とさせていただきます。

平成二十八年一月十九日

納骨堂春季彼岸法要

平成二十八年三月二十四日（木）当日
は朝から雨が降る中、市川市の安国山総寧寺に於いて、午前十時三十分からご遺族二十五名、献体の会理事三名、本学教職員十三名の方々が参加して、総寧寺本堂で納骨堂春季彼岸法要が行われました。

ご住職の読経のなか、参列者一同、献体され納骨堂に眠る方々に対し御焼香をし、ご冥福を心からお祈りいたしました。

その後、本堂でご住職の法話を伺い、ご供養とは何か、真心とは何かとご住職のありがたい法話に深い感銘を受け、それぞれの思いを胸に雨の中を帰路につきました。



本堂での法要（総寧寺）



住職による法話（総寧寺）



本学納骨堂（総寧寺）

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会ならびに 第四十一回東京医科歯科大学献体の会総会

続いて献体の会佐藤達夫会長の挨拶がありました。
献体の思想は、献体によつて自分の身体を将来の人の為に捧げると
いうこと。

平成二十八年五月七日（土）午後一時から第四十一回東京医科歯科大学献体の会総会が天候にも恵まれ、東京医科歯科大学M&Dタワー鈴木章夫記念講堂において、会員二〇三名、同伴者三十二名が出席して東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会ならびに第四十一回東京医科歯科大学献体の会総会が開催されました。

二村昭元運動器機能形態学講座教授の司会により東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会が始まりました。

最初に、献体成願者の御靈に参加者全員による黙祷を捧げました。

次に、二村昭元運動器機能形態学講座准教授から東京医科歯科大学解剖学系分野教授及び准教授の紹介がありました。

続いて平成二十七年度東京医科歯科大学献体の会の現況報告が臨床解剖学分野秋田恵一教授から本学納骨堂市川総寧寺から、埼玉県入間郡にあります武藏野靈園に本学納骨堂が移転することになり、準備を進めている旨の説明があつた。

続いて第四十一回東京医科歯科大学献体の会総会が、献体の会兵頭副会長の司会により開催されました。

次いで東京医科歯科大学の教育担当理事を務めております田上順次理事から挨拶があり、本学の基本理念、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」について、教育、研究、医療についてお話をなりました。



第41回 献体の会総会

それは自分を捨ててもこの世の中をすこしでも進歩させたいとう願い。この献体によつて、学生は解剖学により知識を一つ得るといふこと、もう一つは献体者の尊い意志を受け継いで自分が良い医者になろうとする、それが倫理教育になります。従いまして皆さんのが本学に献体なさるということに誇り持つていただきたいと話されました。次いで、篤志解剖全国連合会総会参加報告が磯秀夫献体の会会報編集委員からありました。

平成二十八年三月二十六日（土）、二十七日（日）に第四十六回篤志解剖全国連合会総会、第四十回団体部会・大学部会合同研修会が福島県立医科大学主催により福島県郡山市にあるビッグパレットふくしまで開催されました。

続いて献体の会役員任期満了にともない役員改選が行なわれました。

佐藤達夫会長から平成二十八年四月十八日に開催された、第一五四回献体の会理事会において選出された新役員候補者が紹介され、第四十一回献体の会総会で承認された。

佐藤達夫前会長が新献体の会会长に選出され、新献体の会会长から新献体の会役員が紹介されました。

引き続いて献体の会佐藤達夫新会長の挨拶がありました。

十分間の休憩の後、永田 傳先生による「後世への最良の贈り物」と題して特別講演がありました。

永田先生は本学医学部を昭和五十三年に卒業なさり、現在、塩野義製薬の製薬医学のチーフメディカルオフィサーをなさっております。永田先生は後世への最良の贈り物と題して、ご自分が東京医科歯科



献体の会総会受付



本学学生によるお茶席



会員による作品展示

大学に入学して、解剖学実習を経験し、ご遺体にじかに接したこと、父親の献体を経験し、肉眼解剖の必要性についてお話をなさいました。死と言うこと、からだを捧げるための献体と臓器移植、アメリカと日本との法律の違い、アメリカの法律では Anatomical Gift Act と書かれています。「からだの贈与法です」からだの贈与とは移植、治療、研究、または教育をも目的としてからだ全体またはその一部を寄贈することと定義する。提供者の死後有効となる」とされている。そして講演タイトル「後世への最良の贈り物」は内村鑑三先生の「後世への最大の遺物」人は人生で何を達成すべきか、何を後世に残せるか。という講演からヒントを得てタイトルをつけられたことなど、先生は日本の医学とアメリカの医学を経験した体験の中から献体の会の皆様に特別講演をお願いしました。

永田 傳先生の大変有意義な特別講演を拝聴し、兵頭作一献体の会副会長の閉会の挨拶により、来年の再開を約して盛会裡に総会は終了致しました。

死と言うこと、からだを捧げるための献体と臓器移植、アメリカと日本との法律の違い、アメリカの法律では Anatomical Gift Act と書かれています。「からだの贈与法です」からだの贈与とは移植、治療、研究、または教育をも目的としてからだ全体またはその一部を寄贈することと定義する。提供者の死後有効となる」とされている。そして講演タイトル「後世への最良の贈り物」は内村鑑三先生の「後世への最大の遺物」人は人生で何を達成すべきか、何を後世に残せるか。という講演からヒントを得てタイトルをつけられたことなど、先生は日本の医学とアメリカの医学を経験した体験の中から献体の会の皆様に特別講演をお願いしました。

平成二十八年度 東京医科歯科大学解剖体追悼式

平成二十八年十月二十日（木）東京築地本願寺に於いて午後一時から解剖体追悼式が厳粛に執り行われました。

当日は朝から天候にも恵まれ、御遺族一五二名、献体の会会員一七八名の方々、が参加し、吉澤靖之学長は海外へ出張のため欠席されたが、大学からは田上順次理事、森田育男理事、田中雄一郎理事、後藤啓二理事、大崎 猛監事、江石義信医学部長、森山啓司歯学部長、大川淳医学部付属病院長、嶋田昌彦歯学部付属病院長他、来賓として佐藤達夫東京医科歯科大学同窓会理事長、東京医科歯科大学献体の会会長、高橋秀直東京医科歯科大学歯科同窓会副会長が参加し大学関係者多数と学生二三九名の参加と会場内には約七〇〇名の方々が参加し、解剖体追悼式が執り行われた。

開会の挨拶の後、系統解剖一〇四柱、病理解剖三十二柱、法医解剖一二七柱の方々のお名前を奉読し、謹んで黙祷を捧げました。

続いて学長追悼の辞、吉澤靖之学長は海外に出張のため、田上順次理事が学長追悼の辞を代読されました。

次に来賓代表、追悼の辞で、佐藤達夫東京医科歯科大学同窓会理事長、献体の会会长が、挨拶されました。

学生代表追悼の辞で医学科二年高野祐二さんは、私たち医学生、歯学生は三か月にわたる解剖学実習を通じて、講義を聞くだけでは得られない多くの事を学ぶことが出来ました。

また、御遺体を解剖するという行為に対し常に緊張感をもつて臨むことが出来ました。

私は、御献体下さった故人、その御遺族の皆様の、学生に対する期待や願いをしつかり胸にとどめ、解剖学実習で得たものを医療者として社会に還元できるように精進していくことを誓います。と述べられました。

続いて、参加者全員による献花が行われました。

次に、挨拶で江石義信医学部長は、私は長く病理医として病理解剖にかかわってまいりました。画像診断機器の発達や遺伝子診断など、医療における科学の発達は日々急速に進んでおります。しかし、やはり真実は、患者様のご身体の中にあり、最後の答えはその中に刻み込まれたものを読み解くことによってしか得られません。病理解剖は病気の原因の究明や臨床診断の確認、さらには治療効果の判定といった、最後の答えを導き出すためにどうしても必要なものであり、また、死因の究明のため執り行われる法医解剖も大学のきわめて重要な役割であります。このように一つ一つの症例が、新しい科学的真相の究明のための基礎にもなっております。と挨拶され、解剖体追悼法要は滞りなく終了致しました。

その後、築地本願寺のご厚意による法要が行われ、厳粛な雰囲気の中で焼香をして、ご住職の法話を拝聴して、法要は滞りなく終了致しました。



解剖体追悼式（築地本願寺）

学長追悼の辞

（代読）東京医科歯科大学理事 田上 順次



本日ここに、国立大学法人東京医科歯科大学解剖体追悼式を挙行するにあたり、解剖学・病理学並びに法医学解剖に、ご遺体を捧げてくださいました二六三名の方々に対し、謹んで哀悼の意を表すると共に深い感謝の念を捧げるものであります。

人体解剖学は、医学・歯学の次世代を担う医療人の育成に当たつて誠に重要な意義を持つております。

解剖学実習では、学生はご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を習得しつつ、初めて、死という逃れようのない生命の尊厳に直面します。これを機に、学生は「自分自身が快適に生きたい」という受動的・利己的な意識から、「自分以外の人気が快適に生きるために」という能動的・献身的な思念に変わり、自分たちは「世のため人の為に医学の道で研鑽を積むのだ」と、医療人としての決意を新たに、自律していくことになります。

病理解剖では、担当の医療チームが現代医学の叡智を駆使し、全力を挙げて治療に臨んだにもかかわらず、効を奏さず、ご遺族願いも虚しく、帰らぬ人となつたご遺体を解剖させていただきます。ご遺体より提供された病巣や臓器の精査と治療結果から知り得る新しい知見は、同じように悩む他の大勢の患者さんの治療あるいは発症予防に役立てることができます。

また、法医学解剖は、黙して語らぬご遺体の死因を特定し、時には犯罪性の有無を明らかにして、社会の秩序の維持に役立つものであり

ます。

このように、それぞれのご遺体は、それぞれの立場で医学・歯学の進歩に光明を投げかけて下さり、そして人間教育の上で、何ものにも変えがたいご教示をいただき、学生の蒙を啓いてくださいます。

医学・歯学の発展のためとはいえ、自らご遺体を献体される崇高純粹な精神、そしてご遺族の示される深いご理解とその寛容なお心に、私どもは改めて深甚なる感謝と敬意を表し、また、心を新たにし、一意専心医学・歯学の教育・研究に一層の精進を重ねることを、固く誓うものであります。

東京医科歯科大学は、菊薫る本日、ここにご遺族並びにご列席の献体の会会員の方々、そしてご来賓の方々とともに、ご献体を賜りました故人の方々を偲び、ここに謹んで追悼の辞といたします。

平成二十八年十月二十日

本日、ここに平成二八年度東京医科歯科大学解剖体追悼式が行われるにあたり、来賓として追悼の言葉を申し上げます。

ここ二百年間の医学の発展は目覚ましいものがあり、多くの病気の本態が解明され、画期的治療法の開発が急速に進み、多数の人命が救われてまいりました。このような近代医学の特徴は、人体を精巧な機械に見立てて理解しようとする態度、すなわち、人体の構造と機能を機械の部品と仕組みと働きというシステムに置き換えて理解しようとする姿勢にあります。医学生・歯学生の専門教育も解剖学、生理学、生化学など基礎医学の学習に始まるのも当然であります。その中でも、常に最初に行われる解剖学には他の科目にはない大きな特徴があります。実習で学ばせて頂くのが、ほかならぬ我々の先輩のご遺体そのものであり、これは金銭で購うことができないからであります。

幸い現在の日本では献体運動が盛んとなり、解剖学実習の実施に苦慮することは稀になりました。次世代の人々のために自分の死後の身体を捧げるという尊い心を基盤とした献体運動は、医学教育に大きな進歩をもたらしています。一つは、尊いご遺志を無としないようにと、教員たちがご遺体から最大限に学びとれるよう実習方法の改善に取り組み、その成果は教育に生かされています。いま一つは、献体者のご厚意を真摯に受けとめた学生たちの実習への取り組みが積極性を増し、学習効果が格段の向上を見たことであります。

それだけではありません。先に述べましたが、近代医学は目覚まし

来賓 追悼の辞



東京医科歯科大学医学同窓会理事長
東京医科歯科大学献体の会会長

佐藤 達夫

い成果を挙げてきました。これを否定してはなりません。しかし人間の身体も心も我々の想像をはるかに超えて複雑であり、強力な近代医学も万能ではないことは我々がよく知るところであります。したがつて、医療者に育つ者としては、科学的思考に加えて、病人への共感と思いやり、つまり人間としてのまなざしを保有し、複眼的視野を持つことが要求されます。行為としての献体は、ご遺体が大学に移送され、防腐処置を受けて保存され、解剖学実習後は火葬されてご遺骨がお返しされると、眼に見える行為であります。しかし献体された方のお気持ち、心情は眼には見えません。学生には、「眼に見える行為」の背景に「眼に見えない心情」を読み取り、献体者の願いを生きている自分が代行することが求められているのです。

我々は、献体なされた皆様の優しいお気持ちを真剣に受けとめなければなりません。そして東京医科歯科大学の学生諸君は優れた教職員の指導並びに大学と献体の会員の支援のもとに、皆様の尊くそして優しいお気持ちをしっかりと受けとめてくれております。献体という小さなルネッサンスが、これから医療の実践に羽ばたく学徒達に、知識獲得という枠を越えて心の膨らみを与えてくれると信じるものであります。献体された皆様がなされたお仕事は實に大きなものがあります。心から尊敬の意を表し、追悼の言葉といたします。また、最愛の肉親を失った悲しみの中で、故人の尊いご遺志を、そして病理解剖のため主治医の願いを尊重してくださいましたご遺族の皆様に心から敬意を捧げます。終わりに、この解剖体追悼式が、医学・歯学・医療科学を志す若者が新しい人間科学を創出しようと決意したときに立ち戻るべき精神的拠り所として、記憶されることを念じます。

平成二八年一〇月二〇日

納骨堂秋季彼岸法要

平成二十八年九月二十八日（水）

当日は初夏を思わせるような晴天の下、市川市の安国山総寧寺に於いて、午前十時三十分から本学教職員十三名、献体の会理事五名の方々が参加して、本学納骨堂の前に秋季彼岸法要と併せて納骨堂閉眼式が執り行われました。

法要は照井住職の大悲心陀羅尼、消災妙吉祥陀羅尼の読経の中、納骨堂に納められた献体成願者のご冥福を祈り、黒衣装に身を包んだ参加者全員が焼香を捧げました。

総寧寺は一時、昭和十二年頃に廃寺寸前の時期もあつたようですが、建立以来、六三〇年に及ぶ由緒ある寺での法要は今回で最後になるということです。

佐藤達夫献体の会会長は納骨堂閉眼式の挨拶で本学納骨堂として約六十年間献体成願者をお守り頂いたこと、また、納骨堂に書かれてある「納骨堂」という文字は先代住職が書かれた文字であることをなど、総寧寺住職に対して深く感謝し、御礼を申し上げ、慰靈に対し閉眼の挨拶を致しました。秋季彼岸法要、納骨堂閉眼式の後、照井住職の法話があり、午前十一時過ぎに無事散会になりました。



御慰靈に対し閉眼の挨拶をする佐藤達夫献体の会会長



住職の法話を聞く参列者（総寧寺）



秋季彼岸法要（総寧寺）

横井妙子さんを偲んで

会員番号2844 兵頭 作一

『篤志解剖全国連合会関係行事』

横井妙子さんは、長い間献体の会役員として副会長を務め、献体の会が白菊会支部時代から献体の会の発足のため運営委員として活動され、大変尽力を尽されました。晩年は献体の会の相談役も務めて頂きました。そして今年、百一歳で大往生されました。

私が横井妙子さんと知り合ったのは、今から約20年前の事です。家内が府中市の福祉施設に行つたとき初めてお会いし、最初の言葉が献体でした。私はその時代、会社勤めをしており、献体という言葉があまり聞きなれなくて、「俺はいいよ」と云つた程でした。

次に横井さんとお会いした時、東京医科歯科大学の教授である佐藤達夫先生が、自ら献体の活動をしていることを聞かされ、献体についてもう少し詳しく知りたくなり、いろいろ説明して頂きました。横井さんは、佐藤達夫先生と当時の「大平総理大臣」を訪問したことなど、献体活動の大変さ、献体の大切さなど、事細かく、一生懸命説明してくれました。私が献体の会登録会員になりましたのも、横井さんと知り合い、献体について教えて頂いたお蔭と思つております。

ここに故人のご冥福をお祈りし、深い敬意と哀悼を表します。

平成二十八年三月二十六日（土）午後一時から午後三時まで
今回は福島県立医科大学が主催して郡山市の郊外にあるビッグパレットふくしまで、篤志解剖全国連合会第四十回団体部会・大学部会合同研修会が開催され、北は北海道大学から南は沖縄の琉球大学までの団体部会四十団体、大学部会六十三大学、二〇九名の参加がありました。

会は天野修明海大学教授（篤志解剖全国連合会副会長）伊藤正裕（東京医科大学教授（篤志解剖全国連合会常任幹事）の司会により始まり、開会に先立ち参加者全員が献体成願された方々に對して黙祷をしました。

次に松村譲兒（篤志解剖全国連合会会長の挨拶があり、続いて「献体が支える解剖学教育——これからを見つめて——」というテーマで三人の講師による講演がありました。

講演Ⅰ 講師は弦本敏行（長崎大学大

学院医師歯薬総合研究科医療科学専攻
生命医科学講座肉眼解剖学分野教授で
「長崎大学医学部における解剖学教育の現状課題——受け継ぐべきもの、伝え



篤志解剖全国連合会総会会場（ビッグパレット福島）

継ぐべきこと—』と題して概略「シリボルト来日以後、長年の歴史がある長崎大学の昨今の医学教育と現況について」講演されました。

講演Ⅱ 講師は本間宙東京医科大学救急・災害医学分野兼任准教授で「献体による外傷手術研修の実践と有用性—解剖学教室との連携を踏まえて—」と題して概略「本間宙講師は新潟県村上市で開業医を続ける傍(かたわ)ら東京医科大学で臨床解剖学的研究会である『本寿会』に携つている経験について」講演をされました。

講演Ⅲ 講師は本学献体の会の佐藤達夫会長が篤志解剖全国連合会理事・公益財団法人 日本篤志献体協会理事長として「献体法制定前後」と題して「主に昭和五十八年の献体法制定に至るまで、関係者の並々ならぬ尽力について」講演されました。

この後、質疑応答が行われ、閉会となりました。さらにこの後、同じ会場で参加者による懇親会が行われました。



団体部会・大学部会合同研修会



金子 重紀

第四十六回篤志解剖全国連合会総会

平成二十八年三月二十七日（日）午前十時から十二時

前日からの晴天に恵まれ再び郡山市のビッグパレットふくしまで篤志解剖全国連合会第四十六回総会が開催され、団体部会四十二団体、大学部会七十一大学、二〇九名の参加者がありました。

総会開催に先立ち、参加者全員により、献体成願された方々に対し黙祷をしました。

次に、松村譲兒篤志解剖全国連合会会长の挨拶、開催大学福島県立医科大学和栗聰教授の挨拶に続き、次の来賓の挨拶がありました。

鳴下一郎、三ツ林裕巳、赤枝恒雄、各衆議院議員、羽生田俊、桜井充、関口昌一各参議院議員、文部科学省高等教育局医学教育課長寺門成真、横倉日本医師会会长、掘日本歯科医師会会长、内堀福島県知事（代理出席副知事）、品川郡山市長、高谷福島県医師会会长、金子福島県歯科医師会会长、菊地福島県立医科大学理事長兼学長、藤本日本解剖学会理事長、八木沼第一二回日本解剖学会総会会頭。

その後、議長選出の後、次の報告事項が報告された。

- 一、平成二十八年度、二十九年度理事選出結果報告
- 二、新会長、新役員選出について
- 三、平成二十七年度会務報告

四、調査委員会報告

- 五、財務に関する委員会報告
- 六、第四十回団体部会・大学部会合同研修会報告
- 七、第三十三回献体実務担当者研修会報告
- 八、公益財団法人 日本篤志献体協会報告
- 九、その他
- 続いて協議事項として

一、平成二十七年度収支決算について
二、平成二十七年度監査について

三、平成二十八年度事業計画（案）について
四、平成二十八年度収支予算（案）について

五、その他

について資料に基づいて協議が行われ、質疑応答の後いずれも原案通り承認された。

次に、今回の開催大学である弦本敏行長崎大学医学部教授及び松村讓児新会長から挨拶があり無事閉会しました。

※次は会議とは直接関係ありませんが、五年前の平成二十三年三月十一日に三陸沖で発生した大地震で、福島県は津波とその後に発生した原子力発電所の水素爆発事故で影響を受けているとのことです。

今回は会議の終了後、開催校の福島県立医科大学を通していわき復興支援・観光案内所の「いわき市の被災地見学ツアー」の案内があり、三十数名の有志が参加しました。

ツアーパスで郡山の会場からいわき市の久之浜地区を往復したのですが、現地では語り部という被災体験者が地区で四十人程が犠牲になつた当時の状況やその後の復興について現場を歩きながら説明されました。



篤志解剖全国連合会（磯秀夫）



篤志解剖全国連合会総会

【エッセー】 『会員寄稿』

古代戸籍

私は東京都葛飾区に在住しています。葛飾区は一三〇〇年前、下総国といわれた国的一部でした。下総国は、奈良県の正倉院に残る文書、「養老五年下総國戸籍」にその存在が記され、その中の、「葛飾郡大嶋郷」に一一九一名の名前が残されています。

古代の戸籍として最古のものは、御野國戸籍、西海道戸籍があり、それに次ぐ日本で二番目に古い戸籍であり、東日本では最古となります。

昨年、葛飾区の生涯学習の一環で、「調べて書く葛飾」という講座に参加し、前述の『下総國戸籍』について調べました。一三〇〇年前といえば奈良時代であり、一般の人々はおそらく文字などは書けなかつたと思われます。

更に、当時の中央政権の権力が及んでいた範囲は、北は北海道と、青森・岩手・宮城の一部を除いた地域と、南は南九州を除いた九州まで及んでいました。そこから推して、養老五年に日本全国で作られた戸籍は、およそ二万巻以上になつたものと考えられます。

その中で現存しているのは『下総國戸籍』の一部のみですから、これは奇跡といつても過言ではないと私は思っています。

葛飾区内に住んでいても、古代戸籍のことなど知らない方が多いので、一人でも多くの方に知つて貰えたら：と、小論文を書いた次第です。

年配の方でしたらご存知と思いますが、山田洋次監督の映画『男はつらいよ』の舞台となつた葛飾区柴又は、下総國葛飾郡大嶋郷の中に

ある三つの里、甲和里、仲村里、嶋俣里のうちの嶋俣里だといわれています。

嶋俣里戸籍中には、「刀（と）良（ら）」という名前と、「佐久良賣（さくらめ）」という名前が記されています。もちろん「刀良」は『男はつらいよ』の主人公『フーテンの寅』に通じ、「佐久良賣」は寅さんの妹「さくら」に通じます。賣というのは、当時の女性名にほぼ100%使われている文字で、現在では通用しませんが、少し前の時代の女の子には付けられていた「子」に当たるものと考えられています。

「男はつらいよ」の舞台、柴又からは電車で三駅程離れていますが、京成線の「お花茶屋」という駅から歩いて五～六分のところにある「葛飾区郷土と天文の博物館」で、複製ではありますが『養老五年下總國戸籍』が展示されていて、刀良さん、佐久良賣さんを確認することができます。

一三〇〇年とは、何世代の繋がりになるのでしょうか。近くを流れる江戸川の堤防の上から町を見下ろし、家が建ち並ぶあの辺りは全て畑だったのかもしれない、少し小高くなつたあの辺りには、草で葺（ふ）かれた堅穴住居があつたかもしれない、車が走るあの道を、夕陽の中、古代の親子が手をつないで帰り道を歩いていたかもしれないなどと考えると、一三〇〇年という時間が、案外身近なものに思えてきます。

今回、一三〇〇年前の戸籍を調べたことで、多くの人から、さまざま貴重なアドバイスを受け、小さな論文を書き上げることができました。

それは私としては卒論をもう一度書いたような気分でした。

そして、「調べて書く葛飾」の受講生八人の小論文を載せた冊子を作りました。人生の終盤に差し掛かった今、青春の縁（よすが）のように小論文に取り組み、それを書き上げるという貴重な体験が出来たことは、少し誇らしい気分になれた喜びでした。

健体を献体 （すてきなあなたに）

3941 吉本 亮三

これは『暮らしの手帖』二世紀一号から連載の「すてきなあなたに」初回の花森安治編集長の宣伝文章である。

四月からNHK-TV朝ドラ「とと姉ちゃん」が始まっている。『暮らしの手帖』を昭和二十三年に創刊した大橋鎮子がモデルで、この大橋鎮子四十九歳の昭和四十四年のこの号より約四十年間『暮らしの手帖』二四〇冊余りに毎号八頁の「すてきなあなたに」を贈り続けてきた。

この頃より購読し読んだ後バラして、「すてきなあなたに」「すばらしき日曜日」「家庭学級」「エプロンメモ」等をスクラップ、再製本し再編『暮らしの手帖』六冊を納戸奥よりを探し出した。

頁を繰ると四十年前の「暮らし」が蘇り、時を忘れて真剣に読み入ってしまった。闇雲に時間に追われて働いていた現役時代とは、全くは異なった「読み応え」であった。

何もない伊豆の山奥に住み、「暮らし」という言葉のない敗戦後に幼少期を過ごした。何もなかつたが「食べて」「遊んで」「寝て」で過ごした。「学んで」の記憶はまるつきりない。

二十二歳で上京、働きながら、大学二部で建築を学んだ。生活は、四畳半の下宿、廃止学生寮六畳に二人で入居（安さでの選択）、それ

あなたがすてきだから、すてきなあなただから、
でなければつい見落としてしまいそうな、ささやかな、
それでいて心にしみてくる、いくつかのことが
わかつていただける、そんな頁です

から鉄筋コンクリート造三畳の独身寮、更に設計が終わるとその設計図書を持って建築現場へ。施工監理のプレハブ小屋生活。どの室も夜遅く帰って寝るだけのスペースでしかなかつた。

「暮らし」を意識したのは結婚して、三六m²Kの宿舎入居から。「暮らし」を学ぶため『暮らしの手帳』の購読を始めた。何もない所に住んでいただけだったが、この本から非常に広範囲の「生活」「暮らし」を学んだが実践には至らなかつた。

スクラップ製本中に昭和五十三年一月十四日付朝日新聞「消費者運動の草分け 花森安治さん逝く」の切抜きがあり、中に沢村貞子さんの話「新しい目と古い人情」で「家庭とはこうありたい」という夢を持つてゐるロマンチストでした。封建的でなく、といつて新しがりやでないない、男と女が本当に寄りそう家庭を求めていたのです」また評論家中野好夫さんの話「在野精神を貫く」の記事も『暮らしの手帖』の目指したところを、よく表現している。

建築とは？　建築の学び始めの頃、バイブル『建築学大系・形態と象徴』より転記したメモが残っていた。そこには、施設計画の展開・造形の方向「風土は建築形態の相貌を決定づける因子である」として

れれれれは星や雲とは語りたいが
雨には打たれたくないのであり

冬の日ざしは欲しいのである

冬の北風は防ぎたいが

夏の道筋は各々の

暴風は困るのであり

その上にはジカには寝たくないないのである

こうした風土の、われわれにとつていわば必要なものと不必要なものの間をたくみに切り開いていく創造的鋭いメスの軌跡が、風土の対応する形態である。

設計の与条件はもつともつと広範囲で、複雑多岐である。

文部科学省の施設整備は国立大学の講義棟や研究棟ばかりでなく、最先端医療を担う附属病院や附置研究所等のウエートが大きくなつてゐる。ノーベル医学賞の山中伸弥先生の京都大学・iPS細胞研究所や、ノーベル物理学賞の梶田隆章先生のスーパー・カミオカンデも整備対象であつた。整備する施設そのものが研究対象であつて計画段階より参画している。でも、基本は「暮らし」であろう。

七月一九日からオランダ南東部のドイツと国境を接する小さな町ナイメーへンでの国際フォーデーズ・マーチ第百回記念大会に参加し三〇kmコースを歩いてくる。郊外に出ると芝生の庭のテーブルでコーヒーを楽しみウォーカーにも笑顔で振舞う。ゆつたりとリバーサイド船が行き交う岸辺を、牛がのんびりと草を食む牧場を、静寂な森の中を、そして、そして笑顔で大歓迎の街中の大きな通りを、四日間楽しみながら歩いてくる。

昭和三十九年の東京オリンピック後の高度成長期、オイルショック、大量から質への転換期、リーマンショック、そして、そして今年の英国のEU離脱、参議院議員選挙と、常に経済最優先での諸課題対応……生活は？　暮らしさ？

高度成長期からひたすら頂上を目指して登つてきて経済大国となつた。しかし振り返つて見ると、手をつなぎ唄いながらゆつくり、ゆつくり登つて来る笑顔の人々がいる。今回も本当の豊かさを求め、樂しく歩き感じたい。

ウォーキングのキヤッチフレーズは一九八五年七月二十一日辰濃和男さんの天声人語「楽しみながら歩けば、風の色が見えてくる」であ

設計の与条件はもつともと広範囲で、複雑多岐である。文部科学省の施設整備は国立大学の講義棟や研究棟ばかりでなく、最先端医療を担う附属病院や附置研究所等のウエートが大きくなつてゐる。ノーベル医学生理学賞の山中伸弥先生の京都大学・iPS細胞研究所や、ノーベル物理学賞の梶田隆章先生のスーパーカミオカンデも整備対象であつた。整備する施設そのものが研究対象であつて計画段階より参画している。でも、基本は「暮らし」であろう。

七月一九日からオランダ南東部のドイツと国境を接する小さな町ナイメーへンでの国際フォーデーズ・マーチ第百回記念大会に参加し三〇kmコースを歩いてくる。郊外に出ると芝生の庭のテーブルでコーヒーを楽しみウォークターにも笑顔で振舞う。ゆつたりリバーサイド船が行き交う岸辺を、牛がのんびりと草を食む牧場を、静寂な森の中を、そして、そして笑顔で大歓迎の街中の大きな通りを、四日間楽しながら歩いてくる。

昭和三十九年の東京オリンピック後の高度成長期、オイルショック、量から質への転換期、リーマンショック、そして、そして今年の英国のEU離脱、参議院議員選挙と、常に経済最優先での諸課題対応……生活は？ 暮らしは？

高度成長期からひたすら頂上を目指して登つてきて経済大国となつた。しかし振り返つて見ると、手をつなぎ唄いながらゆつくり、ゆつくり登つて来る笑顔の人々がいる。今回も本当の豊かさを求め、樂しく歩き感じたい。

ウォーキングのキャッチフレーズは一九八五年七月二十一日辰濃和男さんの天声人語「楽しみながら歩けば、風の色が見えてくる」であ

る。この言葉を刻んだ記念碑が日本スリーデーマーチ大会メイン会場の東松山市役所前に建立されている。

そして今年も、一月四日からの第三十九回日本スリーデーマーチに全国から集うウォーカーを迎える。

七月一七日成田を発つ。今年はどんな風の色が見えるだろう。

「健体の献体」に向けて心も身体も「すてきな暮らし」をしよう。

(平成二八年六月三〇日)

卒寿の彼

5281 奥田 啓一

彼は昨年妻を失い、以前からの脚の骨折と難聴のため一人では生活が困難になり、車椅子と共にこの高齢者ホームに入所して来た。此処にはヘルパーさんが居て、食事は届けてもらえるし、掃除、洗濯、頼めば買物にも付き添つて貰える。彼には丁度適した環境なのだ。十数人居るヘルパーさんはみんな若く元気でピチピチしているので、彼にはなかなか見分けがつかない。始めに一応紹介されたのだが、その場限りで顔と名前が一致しないから、上手にヘルパーさんに呼びかけが出来ない。六十年以上も一緒に暮らした亡き妻は、何も言わなくて以心伝心彼のしてほしい事を瞬時に理解してやつてくれる。そういう暮らしをしてきた彼には、名前も知らぬヘルパーさんを呼び止めて助けを求めることがうまく出来ない。だいいち、ヘルパーさんに、「オイ、オイ」と声をかけた。ヘルパーさんはすぐ気がついて彼の用を足してくれた。

「でも○○さん、私は貴方の奥さんではないのだから、オイ、オイ、

は無いでしょう」

「でも名前を思い出せないんだから・・・なんと呼べばいい！」

「そうねえ！名前を言つてもすぐ忘れるんだから・・・じゃーセめてお嬢さんとでも声をかけて」と笑いながら冗談まじりに彼女は答えた。

とんでもない、謹厳実直な彼がオジヨウさんと呼ぶのは、飲み屋やバーでの事で、今此処で真摯な様子で仕事をしている彼女にかける言葉ではない、どうしよう、しかしここで声をかけなければ・・・

崖から飛び降りる気持ちで声を発した。「オツ、オツジヨウツアーン！」

近くに居合わせた何人かが「オツ」と声を上げた。彼は一瞬赤くなつた顔を下に向け、そして睨んだような眼を上に向けた。私は何だか哀しくて顔を上げる事が出来なかつた。

九十歳にもなれば物覚えは悪く、物忘れが多くなるのは当然のこと、でも顔を合わすごとに、「私は○○と言うのよ」と繰り返し、繰り返し言えれば、いずれは彼もヘルパーさんの名を呼べるようになるのではないか。ヘルパーさんのご苦労は良くわかるのだが、智力、体力の劣化した老人には、つまらない事でも繰り返し教えて行くという心が必要なのでは？。



金子 重紀

私が老人ホームに勤めていたのは昭和五十二年のことである。老人ホームにあつた献体のパンフレットを見て、献体をするのだという。母は、私が小学校一年の頃から病気で、毎日学校から帰ると何十年も離れた部屋で床についていた。その時代、人にも嫌われ恐れられた肺結核であつた。私の家は母と、母の代わりの家政婦のテルばあちゃん、トモエと言うお手伝いさんと四人の生活であり、父は東京から、お盆とお正月しか帰つてこなかつた。

しばらくして母の病気も治り、どんなことをしても寝ることのない元気な母になりました。母は私に、「私はお国のために献体するよ」と申しておりました。そのことを主人に話したところ、主人に叱られ、皆から非難のまとなりました。そのあと、母から献体の書類が届き、献体の同意書に印を押してくださいといわれ、我が家は大騒ぎとなりました。私の従妹の姉も私の母に育てられ、姉も献体をし、この前ご遺骨が帰つて来ました。

私も献体することに決めております。「あんた身売りするの」と、訳のわからない友達の言葉です。私は母の心も、姉の心も分かっていないつもりです。だから行くことにしたのです。

その日がきたら、母の「お国のために」の心でまいります。まだまだ献体がどういうことか世の中の人は分かっていない。私は勇んでおつとめを果たします。只今八十五歳です。もう何時か近いと思つています。その日迄、一日一日を楽しく生きてまいります。

一步間違えば殺されていたかもしれない危険な目に遭つたことがあります。

昭和五十年、共同通信記者として大蔵省（現財務省）を担当していた当時、一〇カ国蔵相会議を取材するため大平正芳蔵相に同行してワシントンに行つた。

ワシントンではハワード・ジョンソンズというホテルに泊まつた。同ホテルの前がウォーターゲート（ホテル、商業施設、オフィスなどがある複合施設）でいわゆるウォーターゲート事件の舞台になつたところだ。

われわれが赴いた前年（同四十九年）にニクソン大統領は既に同事件で辞任しており、もう事件をしのばせるものは何もなかつた。大平蔵相らはウォーターゲート・ホテルに宿泊、一〇カ国蔵相会議も同ホテルで行われた。

記事執筆の合間、ワシントンの市街を高い所から眺めてみたり、ハワード・ジョンソンズ・ホテルの屋上に行つてみようと思い立つた。同ホテルは確か七、八階だったと思うが、屋上直下までエレベーターで行き、階段を上つてドアを開け、屋上に出てドアを閉めた。ガチャン。これが「あわや！」の始まりである。閉めたらドアは開かないのだ。外国ではよくあるケースだが、その時は全く意識していなかつた。とにかく後の祭り。ドアは押しても引いてもびくともしない。現在のように携帯電話があるわけでなく、助けを求めようにも何の手掛かりもない。屋上から下に叫んでも届くようなものでない。

万事休すか。落ち着いて屋上の状況をよく見ると片隅に外付けのらせん階段がある。とにかくこれ以外、降りようがない。どうなるかわからないが瀬戸際に追い詰められ、わらにもすがる思いだ。らせん階



金子 重紀

【短歌】

4667 石井 禮子

晴れ晴れと朝日に向きて 深呼吸 今日九十二歳わが誕生日

病む日なく身も氣も清かに九十二歳 枢葉の母さまありがたき

T十三、三、三十生

沈丁花ほのかに香ふ テーブルに明日着る着物の小物揃える

産室に初めて逢ひにしその貌も追憶はつきぬ残されて母

次女五十六歳死去

果てなく機上の窓に移りゆく 大海原よ 地球は一つ

日野原先生とハワイ旅行の帰路窓辺に席を得て

段に足を掛け恐る恐る下へー。今もつてわからないのだが、外付けのらせん階段はいつの間にか建物内に入り込んで、何とホテルの厨房に通じていた。朝の六時ごろだつたと思う。厨房では黒人の大男が牛刀でブロック肉を処理していた。

降りていく階段と黒人ととの距離は一五、六メートルぐらいか。相手は私に気付いていない。黒人がこちらに向いて処理している時、私はじっと立ち止まる。相手が背を向けたら私は音を立てずに数段降りる。そういうことを繰り返しながらまさに冷や汗の真剣勝負。

なにはともあれ厨房を抜け出さないといけない。さらに下つていくと真っ暗な倉庫のような場所に降り立つた。人の気配もない。下着は汗びっしょり。地に足がついていない。ふわふわした感じながらホオ。ともかく降りた。暗闇に慣れてくるとかすかにドアの隙間が目に飛び込んできた。右のドアを引くと何の苦もなく簡単に開いた。らせん階段の苦闘と拍子抜けする脱出：何と落差の大きいことか。

何事もないように私は部屋に戻った。藏相会議は何がテーマでどんな記事を書いたか全く記憶にないが、この出来事は何年たつても鮮烈に覚えている。帰途、ハワイに立ち寄つてワイキキの海岸で思い切り泳いだ。間一髪どうなつていたかわからないおぞましいアクシデントを振り払うように……。

雪の日は出るんじやないと息子云う
さからいつつも心してあるく
久方の母の夢みてなつかしくむかえにきたのと問うてる私

5443 根本 節子

今年こそ花をさせとつぶやいて金のなる木に話してゐる我

来年はみられると云う保証なし思えば哀し花火かな

花みず木こんなきれいな花なのとうたもい、唄老の身さわぐ

【川柳】

就職

就職の朝母は赤飯を
採用の葉書を胸に汽車に乗り
新人の仕事机は入口に
四十年後の机は窓際に
還暦で花束抱いて見送られ

4785 磯秀夫

81 塩田美保子

傘さして 終わりの桜 見とどけに
傘を杖に 終わりの桜 見とどけぬ
九十一歳の春

2958 木村武雄

しばらくは 一句も成らじ 花の本
夢魂にも 十七文字を 追う余寒よかん

◆東京医科歯科大学献体の会役員

| | | |
|-----|------|-----|
| 会長 | 八一〇 | 佐藤達 |
| 副会長 | 二八四四 | 兵頭作 |
| 副会長 | 三三七二 | 星君 |
| 理事 | 九二二 | 橋内 |
| 理事 | 四五四六 | 宮野 |
| 理事 | 三八二〇 | 星美 |
| 理事 | 四五六二 | 保栄 |
| 理事 | 四七八五 | 枝一夫 |

磯 飯 前 橋 田 川 保 静 夫 一 子 枝 一 夫



【東京医科歯科大学献体の会会則】**(名称・事務局)****第一条 この会は、東京医科歯科大学献体の会（以下「本会」という。）と称する。****第二条 本会の事務局は、東京医科歯科大学医学部に置く。****（目的・事業）**

第三条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、医学及び歯学の発展と人類の福祉に貢献するために、会員の遺体を無条件、無報酬で東京医科歯科大学に寄贈することを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 篤志献体に関する広報活動
- (2) 親睦会の開催
- (3) 講演会及び集会の開催
- (4) 会報の発行
- (5) 献体者の慰靈

(会員) その他本会の目的達成のため役員会において適当と認めた事項

第五条 本会の会員は、第三条の目的に賛同し献体登録した者とする。ただし、この趣旨に反すること、又は本会の品位を著しく傷つける行為のあるときは、役員会において役員の三分の二以上の議決により、会員の登録を取り消すこともある。

第六条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 二名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 二名

2. 理事となる者は、役員会で選考し、総会の承認を得る。
3. 理事の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。

4. 会長及び副会長は、理事の互選とする。

5. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

6. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。

7. 理事は、役員会を構成し、会務を遂行する。

8. 監事は会計を監査するほか、役員会に出席して意見を述べることができること

ができる。

(会議) 本会の会議は、総会及び役員会とする。

2. 総会は年一回開会し、会長がこれを招集し、その議長となる。
3. 総会においては、次の事項を審議する。

3. (1) 会の運営及び事業に関する事項

3. (2) 理事の承認

3. (3) その他の事項

第八条 役員会は、会長が必要と認めたとき隨時開催し、次の事項について審議する。

- (1) 会の運営及び事業計画
- (2) 収支予算に関する事項

会の決算及び事業報告

その他会長が必要と認めた事項

2. 役員会の議事は、出席者の過半数をもって議決する。

(顧問及び相談役)

第九条 本会に、顧問及び相談役を若干名置くことができる。
2. 顧問及び相談役は、学識経験者、理事退任者の中から理事会に諮り会長が委嘱し、必要に応じ理事会に出席し意見を述べる。

(会計)

第十条 本会の経費は、補助金、寄付金等をもつてこれに当てる。

2、会の会計年度は、四月一日から翌年の三月三十一日までとする。
(その他)

第十一条 本会則の改正は、総会の議を経て定める。

附 則

この会則は昭和五十九年四月二十一日から施行実施する。
この会則は昭和六十二年四月十八日一部改正実施する。
この会則は平成十四年四月一日より改正実施する。

【東京医科歯科大学からのお知らせ】

◎納骨堂の移転について

平成二十八年の暑中見舞いおよび解剖体追悼式ご案内状にてお知らせ致しましたように、東京医科歯科大学納骨堂は、千葉県市川市の総寧寺から埼玉県入間郡毛呂山町にあります「武藏野靈園」に移転することとなりました。お参りは平成二十九年三月より可能となる見込みです。

靈園名 武藏野靈園

住 所 埼玉県入間郡毛呂山町南台三丁目一番地四

詳細につきましては、献体の会事務局にお問合せください。

申込先

〒一一三一八五一九 東京都文京区湯島一ー五ー四五

東京医科歯科大学 大学院 臨床解剖学分野内

「東京医科歯科大学献体の会」事務局

電話 ○三一五八〇三一五一四七

◎住所変更等の連絡のお願い

住所、氏名、電話番号、ご家族の連絡先等が変更になつた方はできるだけ早く献体事務局まで、お電話または文書等によりご連絡お願い致します。

会員ご本人が遠方へ住所を移される場合には、献体登録を住所地の近くの大学にご紹介する場合がございます。大学からの距離が非常に遠い場合にはお引き取りできない場合がございます。また、お亡くなりになつた後に他の大学にご紹介することは、非常に難しいので、住所を移される場合には献体事務局にご相談いただきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◎献体手帳について

平成二十九年度「献体手帳」をご希望の方は次の要領でお申し込みくださいますよう、よろしくお願ひ致します。

「献体手帳の申し込み方法」

お名前・会員番号をご明記の上、送料として九一円分の切手を同封の上、郵便にてお申し込み下さい。お申し込みは、お一人様一冊とさせて頂きます。

なお、ご家族で会員にならされている方で、二冊お申し込みする場合、二冊分の送料は一四〇円となります。三冊以上ご希望の方は事務局へお問い合わせ下さい。

【会員のご家族へのお願い】

会員の方が亡くなられた時は、次の順序でご連絡と打ち合わせをお願い致します。

一、大学への電話連絡

○平日 午前八時～三〇分午後五時～六時

① 東京医科歯科大学 献体事務局（直通）〇三一五八〇三一五一四七

② 東京医科歯科大学（代表）〇三一三八一三一六一一

平日の勤務時間内出来るだけの対応を致しておりますが、直接献体事務局に連絡をいただいた時、学内に出かけている場合がございます。その時には大学（代表）の電話交換手にその旨をお伝え下されば、こちらから再度ご連絡申し上げますので、ご遺族代表者の連絡先及び亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時をお知らせ下さい。

よろしくお願ひ申し上げます。

○夜間・土曜・日曜・祝祭日・年末年始

東京医科歯科大学（代表）〇三一三八一三一六一一

夜間、土曜、日曜、祝祭日、年末年始などの場合は、大学の電話交換手にその旨お伝え下されば、担当者の携帯電話に連絡がつく態勢になつております。その際、亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時・連絡先・連絡者を必ずお知らせ下さい。担当者が学外におります場合には、東京医科歯科大学 献体の会の会員であることをすぐには確認できませんので、ご連絡の前に会員であることを再度ご確認頂きますようお願い申し上げます。

なお、迅速に対応できるような態勢をとつてはおりますが、諸事情（電波受信の状態が悪いところにいる場合など）により担当者からの連絡が遅れることがあります。大学から、担当者へは連絡がつくまで対応いたしておりますので、ご容赦願います。

二、大学担当者との打ち合わせ

ご遺族の代表者は次のことを担当者と打ち合わせて下さい。

① 大学がご遺体をお迎えにあがる日時

② 大学がご遺体をお迎えにあがる場所（住所・電話番号）

③ お棺持参の要否

④ ご遺族代表者の氏名、住所、電話番号

⑤ 「解剖に関する遺族の承諾書」等の書類は、担当者が後日お送り致しますので、ご記入、ご捺印をお願い致します。

⑥ その他：お通夜、告別式をなさる場合にはその日時・場所をお知らせ下さい。なお、ご遺体の移送は大学がお引き受けし、寝台自動車でお迎えに上ります。

三、ご家族に用意していただく書類

○ ご遺体移送のときに必要な書類

死亡診断書の写し

一通

・死亡診断書の写しをご用意下さい。ご遺体を寝台自動車で移送するとき必要になります。

○ 後日、郵送していただく書類

埋葬・火葬許可証 一通

・埋葬・火葬許可証は担当医師の死亡診断書を添え「死亡届」を市区町村へ提出すると交付されます。

・なお、火葬予定場所には「渋谷区代々幡斎場」とご記入下さい。

※ 注意事項

次のような場合、献体をお断りすることがありますので、ご了承下さい。

- ① 事故で亡くなられた場合（交通事故死、水死、焼死、災害死など）
 - ② 死亡後、時間が経過し発見が遅れた場合
 - ③ 病理解剖や法医学による死因検査
 - ④ 旅行中など、大学から非常に遠い場所で亡くなられた場合
 - ⑤ 大学から非常に遠い場所へ転居され、住所変更のご連絡がないまま転居先で亡くなられた場合
 - ⑥ 死亡後、臓器提供をされた場合
- なお、重症感染症の場合も献体をお受けできないことがありますので、担当者とご相談ください。

◆表紙の写真説明

湯島を背にスカイツリーを望む「浅草遠近」

撮影 五二五四 小山總三郎

旧国際劇場跡地に立つ浅草ビューホテルから湯島を背にして浅草寺越しにスカイツリーを望んだ「浅草遠近風景です」

昨年（平成二十七年）のお正月に浅草寺初詣の際、宿泊したホテルの窓から撮影したもので、近景左は夕日に映える浅草寺本堂、右には五重塔が見えます。この五重塔は現在改修工事中で来年九月末まで囲いの中で見えません。中景は仲見世を含む浅草の街並み、遠景には遥かにスカイツリーが望めます。

追記

東京スカイツリー（TOKYO SKYTREE）は、東京都墨田区押上一丁目にあり、二〇一二年五月二十二日にオープンした地上デジタル放送等の電波を送信する世界一高い自立式電波塔です。高さは六三四m、構造は伝統的日本建築などに見られる「そり」や「むくり」をもち、五重塔の心柱制振システムなど、日本古来の技と最新技術による制振構造を取り入れている。その足元には東京ソラマチ、水族館、プラネタリウム、郵便博物館などがある。

◆編集後記

年の瀬が近づき献体の会会報をお届けする季節となりました。

今年は熊本地震、鳥取地震、参議院議員選挙、東京都知事選挙、リオ・デ・ジャネイロでのオリンピック、パラリンピックなど、行事、災害がありましたが、日本人ノーベル賞三年連続受賞も大きな話題と思われます。

| 連絡先 | |
|-----|---|
| 発行 | 東京医科歯科大学献体の会 〒一一三一八五九 東京都文京区湯島一ー五一四五 |
| 電話 | 〇三(五八〇三)五一四七 |
| FAX | 〇三(五八〇三)〇一一六 |
| 印刷所 | 小宮山印刷工業株式会社 |
| 電話 | 〒一六二一〇八〇八 東京都新宿区天神町七八 |

生が、素粒子の研究でノーベル物理学賞を受賞しました。先生は昭和五十六年に埼玉大学の理学部物理学を卒業しています。

私は五十三年に埼玉大学に事務員としてお世話をなつたのですが、先生は昭和五十三年には二年生として在学していましたことになります。すると三年間は同じ大学の門を潜っていましたことになります。勿論、学内で顔を合わせたことはないのですが、目に見えぬ親しみを感じております。

今年の四月には、やはり同じ埼玉大学を卒業した奥さんの美智子さんと一緒に母校を訪れ、ノーベル賞受賞記念講演会や記念植樹式が行われたとのことです。
献体とは余り関わりのない編集後記になってしまいました。
今年新たに三人の編集委員が加わりました。たまたま三人とも女性ですが、次回からリフレッシュな編集後記が期待されます。（い）

献体の会会報編集委員

| | |
|------|---------|
| 四七八五 | 磯 義夫 |
| 五一八四 | 長 谷 久 枝 |
| 五二三九 | 岡 本 祐 子 |
| 五四八二 | 廣 田 順 子 |